

[別紙③]

第2学年 トライやるウィーク指導案

- 1 主 題 「トライやる・ウィーク～言葉の力、地域の中のわたし～」
- 2 ね ら い 地域の方からかけてもらった言葉による自分の心情の変化に気付き、言葉かけの重要性について考える機会とする。また、活動を通して地域の一員としての自覚をもたせ地域が自分の居場所となるきっかけとする。
- 3 人権教育の内容 人間関係の活性化3-(2)ーア

4 生徒の実態と主題について

(1) 生徒の実態

本校はコミュニティスクール推進校であり、地域との交流の機会は比較的多い。しかしそのほとんどが校内行事での交流となり、生徒一学校一地域というように、生徒と地域の間に学校が入り成り立っている状況である。生徒自身が主体的に地域の中で活動するきっかけとしては、第二学年のトライやる・ウィークが大きな役割をもつ。トライやる・ウィークをきっかけとして、トライやるアクションやその後のボランティア活動などにつながっている。さらには、トライやる・ウィークをきっかけとして将来の夢や目標が明確になり、その後の進路に影響した生徒も少なくない。実際多くの事業所に本校卒業生がおり、生徒にとってトライやる・ウィークが地域を知り、地域で生きることを考えるきっかけともなっている。

また、昨今の生徒の実態として、コミュニケーション能力の涵養が緊急の課題としてあげられる。校内でおこるトラブルの多くがコミュニケーション不足によるものであり、教師が入り丁寧に話をすることで簡単に解決することがほとんどである。さらに、何気なく受け手がマイナスにとれる発言をしてしまう生徒が多く、コミュニケーションのとり方、ひいては言葉の使い方を丁寧に指導する必要性を感じている。そして、マイナスの発言をしてしまう生徒の多くは、Q-Uテストなどのアンケート調査においても、自己肯定感や自己有用感が低い傾向にあり、言葉の使い方と人権感覚の関係性は非常に大きいことが考えられる。

(2) 主題設定の理由

トライやる・ウィークでは、5日間学校を離れ地域のなかで地域の方とともに生活することになる。地域の方といかにコミュニケーションをとりながら働くかということは、生徒にとって非常に有意義な教育的活動といえる。そのなかで、活動中地域の方とのやり取りをふり返り、自分にかけてもらって嬉しかった言葉を抽出する。そうすることで、働くことの意義や言葉のもつ力の大きさなどを実感として学習させたい。さらには、生徒の自己有用感や自己肯定感を高める5日間にした。最終的には、地域が生徒の居場所となり、地域の一員であるという自覚を再確認させたい。

5 指導目標と評価規準

- (1) 様々な地域の方とのかかわりをもとに、生徒の自己有用感や自己肯定感を高める。
- (2) 自分の将来について考える機会とし、将来に対する夢や希望をもたせ、それを実現するために必要な学習を主体的に考えることができる。
- (3) 地域での経験や学びを学校生活にも生かし、円滑なコミュニケーションをもととした生徒会活動や部活動など学校の先頭に立って有意義な活動を実践できる。

6 指導計画

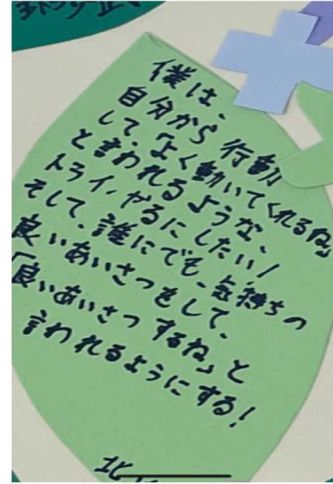
- (1) 事前指導 10 時間
- (2) 事前訪問 2 時間
- (3) 活動期間 5 日間
- (4) 事後訪問 2 時間
- (5) 合同報告会 5 時間
- (6) 作文集作成 3 時間

7 展開

| 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 |
|---|--|--|
| <p>1 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人からかけていただきたい言葉はどんな言葉か、その理由も考える | <p>【かけてもらいたい言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ありがとう 助かった 頑張っているね 来てくれて嬉しい 一緒に頑張ろう | <ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を考える際に、事業所の方からの視線も考慮に入れ、考えをより多角的にする。 その理由にも考えを巡らせることで自分たちのとるべき行動を深く考えさせる。 |
| <p>2 事前訪問</p> | <p>【実際にかけてもらった嬉しい言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来てくれてありがとう 楽しみにしているよ 暑くなかった？大丈夫？ | <ul style="list-style-type: none"> 事前訪問を踏まえ、想像と現実の違いを理解し、より十分な準備をさせる。 |
| <p>3 活動期間中</p> | <p>【実際にかけてもらった嬉しい言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ありがとう すごいね 頑張ったね これまでのこの中で1番良い 来週からも来てほしい もう終わるのか... | <ul style="list-style-type: none"> なぜその言葉をかけてもらったのか考えることで、自分がした行動の意義や価値を実感させる。 自分の行動が誰かの役に立っていること、自分は誰かに支えてもらっていることを実感させる。 |
| <p>4 事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> かけてもらった言葉は自分の成長にどのようにつながったか。 その後の学校生活にどのように生かすことができるか。 | <p>【言葉かけと自分の成長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初はできないことばかりだったけど、できることが増えてきて褒めてくれて自分に自信がもてた。 あいさつただけで褒めてもらえてあいさつはやっぱり大事なんだと感じた。 稲美町にはいろんな仕事があり、自分たちは支えてもらっているんだと感じた。 学校でできていることも実際の社会に出ると何もできなくて悔しかったけど、優しく教えてもらってうれしかった。 トライやる・ウィークでは、自分がやりたいことかどうかは問題ではなく、どう頑張るかが大切だと学んだ。学校生活にも生かしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 事後学習として1年生にトライやる・ウィークについて発表する。 期間中に考えたことを基礎として、学校生活にお行ける言葉遣いや行動について考える機会をつくる。 |

[別紙②]

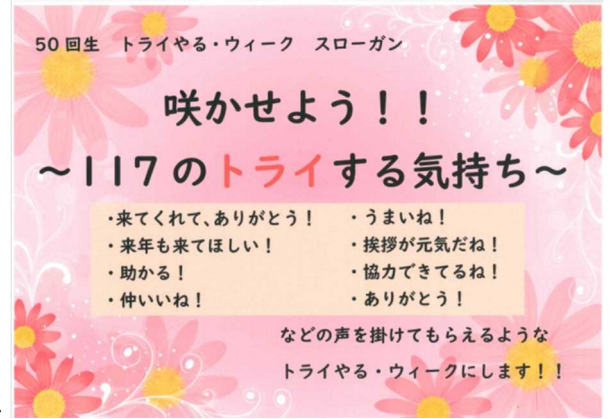
○活動前～こんな自分になりたい～



言葉かけによる開花

○事業所の方からかけてもらったうれしかった言葉

- ・頑張っているね
- ・助かる
- ・偉いね
- ・すごいね
- ・これまでで1番頑張ってくれる
- ・もっと長く働いでくれていいよ
- ・来年もきてほしい
- ・ありがとう
- ・元気があるね
- ・よく働くな
- ・みんな仲良いね
- ・よく気付くな
- ・あいさつがすばらしい
- ・利用者さん喜んでたよ
- ・お客さんが「頑張ってるね」と言ってくれていたよ



○活動後～こんな自分になった～

